

鹿児島県

〔編集・発行〕鹿児島県奄美パーク
鹿児島県奄美市笠利町節田 1834
TEL .0997-55-2333
FAX .0997-55-2612
<http://www.amamipark.com/>

vol. **11**
2008.7

奄美パークだより



- ◆ 奄美の郷企画事業
- ◆ 田中一村記念美術館企画事業
- ◆ 奄美パーク応援隊紹介
- ◆ わきや島自慢
- ◆ 常設展示室

写真：2007トライアスロン in 徳之島（天城町）



ライブステージ 11月

平成19年11月25日(日) イベント広場

第5回奄美シマ唄(カサン唄)への^{いざな}誘いと題し、笠龍地区民謡保存協会の若手からベテラン唄者まで総勢32名によるシマ唄と宇宿小学校の児童総勢23名による伝統舞踊「稲すり踊り2007」が披露されました。

シマ唄は32曲が唄われ、その中には普段聞きなれない「花染節」や「儀志直節」「浦富節」「ヨー加那節」などもありました。

「稲すり踊り」は、昭和初期に五穀豊穡と地域の発展を願う踊りとして伝えられ、町の無形文化財となっていたものを、平成5年当時、中野教諭が運動会用にアレンジ・披露したことがきっかけとなって始まりました。現在は上級生から下級生へ、また、地元宇宿稲すり保存会などの方々から指導を受け、今年で15年目。三線・太鼓・指笛の演奏でかごやきねなどをもち、米作りの様子を踊りで表現し、シマ唄とともに会場を盛り上げました。



奄美民話への^{いざな}誘い

平成19年12月9日(日) レクチャールーム

～語り継ごう、
ふるさとのことばを、
むかしばなしを～

「奄美民話の会」の方々に講師に迎え、奄美の民話を語っていただきました。

方言での語り、布やエプロンなどの道具や仕掛けを用いた語り、童唄など聞く人をあきさせず、お年寄りから子供まで楽しめる内容でした。

また、「語り聞かせは子供たちの想像力に重要であり、民話を語り継ぐことで先人の自然に対する想いなどが受け継がれる。」とまとめられ、有意義な奄美民話への誘いとなりました。



フュウンメコンサート

平成19年12月16日(日) イベント広場

フラの心を奄美から発信している Hula Kao STUDIO による華やかなフラダンスに始まり、続いて奄美群島の中でもシマ唄の原形が色濃く残る徳之島から、第17回日本民謡ヤングフェスティバル2007においてグランプリを受賞した内山五織さんと第28回奄美民謡大賞において特別賞を受賞した佐田ますみさんが、幼なじみならではの息の合った趣あるシマ唄を披露しました。

また、旬な出演者として、NHK第11回熱血!オヤジバトルにおいて競争率約24倍の難関を突破して出場した平均年齢47歳のMAC BAND(マックバンド)が登場。その円熟したジャンプブルースは、パワフルな音で観客を魅了しました。

続いて、奄美の静かで暖かな冬とは異なり、寒く厳しい東北の冬を感じてもらおうと津軽三味線の師範、山本竹勇さんが登場し、奄美の三味線と同じ絃を使用しているが異なる音色を奏でる津軽三味線で観客を魅了しました。





こどもクリスマス会

平成19年12月23日(日) 奄美の郷及び周辺

奄美の郷正面玄関前では奄美手熟師会による「こども体験教室」が行われ、昔ながらのおもちゃを作り、完成後は手熟師がその遊び方を教えました。

イベント広場では、地元マジシャンによる「マジックショー」で会場を大いに盛り上げた後、あまみFMによる「ラジオ教室」ではミニFM局を開局し、実際に放送をしてラジオ放送の仕組みを教えました。続いて県立大島養護学校のあそびうたサークル「ぱすてる」による「かかわり遊び」で音楽に合わせ、知らない人同士がかかわって遊び、最後に「ちびっ子クリスマス大抽選会」を行い、多くの子供たちに楽しんでもらいました。



↑ 奄美手熟師会



↑ あまみ FM 生中継



↑ マジックショー



ラジオ教室→



ラジオ教室→



↑ あそびうたサークル「ぱすてる」

初春唄あしび

平成20年1月3日(木) イベント広場

新春恒例で今年7回目。唄者には坪山豊さん、山元俊治さん、橋本和昌さん、福岡京子さん、牧岡奈美さん、そして坪山さん率いる島唄研究グループによる素晴らしいシマ唄と柳清会本流による色彩豊かな紅型に身をつつんだ琉球舞踊が披露されました。

また、酒井多賀志さんによるパイプオルガン演奏並びに坪山豊さん、牧岡奈美さんによるシマ唄とのアンサンブルによる幻想的な音色に会場は感嘆の声を上げていました。

そして、最後に恒例となっている笠利町節田集落の皆さんによる伝統行事「節田マンカイ」（解説：通称正月マンカイとも呼ばれる同集落で旧正月の前後に行われる室内の遊び。）を披露し、多彩な演目構成で新年最初のイベントを盛り上げました。





奄美民話への誘い^{いざな}

平成20年2月10日(日) イベント広場

～けんむん あまくま むんがたり～

「けんむん村」というけんむんに関する伝承などを研究する集まりの村長である中山清美さん(奄美市笠利町)をコーディネーターに、それぞれ出身が違う村民の四本龍太郎さん(奄美市名瀬)、且恵美子さん(龍郷町)、林範孝さん(瀬戸内町)、茂木幸生さん(奄美市住用町)をパネラーに招いて、「けんむん」について語っていただきました。

実際の体験談や伝承などから各地域の特徴を比較し、「体験談を記録にして後世に伝えていくこと」や「けんむんが心の中にすんでいると信じて自然を大切に守っていくこと」が重要であるとまとめました。



親子で楽しむシマユムタ

平成20年2月11日(月) イベント広場

奄美の「方言の日」(方言=シマユムタ)である2月18日を前に、「方言の日」を認知していただくとともに、方言に慣れていない世代が方言に親しむ機会として開催されました。

第1部では「親子で一緒に」と題して「大笠利わらべ島唄クラブ」による童唄やシマ唄、西村勝博さんによるアカペラでの方言による歌と「シマユムタ伝える会」の方言による「けんむんばなし」が披露され、会場はその歌声とお話に聴き入っていました。

そして、第2部は「こそだてむんばなし」と題して、「シマユムタ伝える会」の方々による各地域のシマユムタを楽しみました。

また、小・中学生を対象に第1部で聞いた「けんむんばなし」を基に、想像したけんむんを描くワークショップを行いました。子供たちは真剣に聞き入り、活き活きとしたけんむんを描いていました。



春まつり

平成20年2月17日(日) イベント広場

～シマジマだより～

奄美は本土よりも一足先に春が訪れることから、春間近なこの時期に、奄美群島の各シマジマ(各集落)のシマ唄や踊りなどの伝統芸能によるイベントを開催して奄美の魅力を島内外の方々に知っていただこうと開催しました。

瀬戸内町を中心とした各シマジマのシマ唄に5名が出演しました。日本舞踊には若い名取も出演され、ベテランとは一味違う若々しくもしっかりとした舞踊を披露しました。琉球舞踊には総勢7名が出演され、曲目「四ツ竹」では沖縄らしい紅型・花笠で色彩豊かな趣のある舞踊となりました。新民謡にはCDをリリースしている実力者ら3名によって、奄美に親しみのある「島のブルース」などが歌われました。

また、大正時代から受け継がれるシオンマイカ踊りが伊仙町から出演。富山県八尾町の「越中おわら節」という民謡に合わせて踊る「おわら節」がルーツと言われ、奄美大島の人々にとっては初めて見る踊りに観客の目は釘付けとなり、良い伝統文化の交流となりました。





春まつり

平成20年3月2日(日) イベント広場

～サンガツサンチ～

2月に行った「春まつり～シマジマだより～」に続く春まつり第2弾。

オープニングには先史時代の宗教儀式がその始まりといわれる韓国伝統舞踊が登場し、プチェチュム（扇の舞）やコンム（剣の舞）、そして太鼓で観客を魅了しました。

また、瀬戸内町と天城町からの唄者による「シマ唄の聞き比べ」や、日本舞踊と琉球舞踊も登場し、舞台に花を添えました。

さらに、全国大会出場を果たした県立大島北高校空手道部は、今回の卒業により部員がいなくなるため、これまで応援してくれた地元奄美の方々にお礼の意味を込めて、空手演武を披露しました。



ライブステージ 3月

平成20年3月16日(日) イベント広場

平成19年度最後のライブステージとして、山元俊治さん、川畑公一さん、山下聖子さん、永井しずのさん、平田博三さんらの唄者と、県立大島養護学校あそびうたサークル『ばすてる』に出演していただき、「シマ唄」（ヒギヤ唄・カサン唄）と「あそびうた」で子供からお年寄りまで幅広く楽しめるステージが開催されました。

シマ唄では、ヒギヤ唄とカサン唄によるそれぞれの「朝花節」を披露し、カサン唄にしかない曲も披露するなど来場者を楽しませていただきました。

また、『ばすてる』のあそびうたでは、来場者も参加できる手遊び歌などがあり、ステージと会場が一体となって盛り上がりました。



喜界島文化講演会

平成20年3月22日(土)
喜界島自然休養村管理センター

喜界島では2回目となる文化講演会。今回は田中一村記念美術館学芸専門員の前村卓巨による講演を行いました。

演題は『奄美曼荼羅・一村作品に隠された謎』としてプレゼンテーションソフトを使用して、理解が難しいと思われる絵画などを視覚的にわかり易いよう配慮して行われました。

まず、西洋絵画での絵を見る時のポイントなどを紹介して、絵に描かれている物の意味を解説しました。その上で一村の絵に隠されている謎を解説しました。

来場者からは「普段絵を見る時はきれいだとかうまいと思う程度だったが、前村先生の講演を聞いて、違う視点で絵を見ることができそうで楽しみだ。」という意見をいただきました。

講演の後は、地元唄者の川畑さおりさん、川畑奈々さんによるシマ唄や日本舞踊の方々の舞踊で花を添えていただきました。当初用意していたイスが足らずに後方で立ち見の方もいるほど多くの来場者に來ていただきました。





第3回新緑～紅葉 スケッチコンクール

応募期間

平成19年 4月22日(日)～平成19年10月 8日(月)

展示期間

平成19年10月21日(日)～平成19年11月24日(土)

奄美の自然及び奄美パークの素晴らしさを認識していただき、美術への理解や創作への関心を広げてもらおうと開催しました。

「むるむるきよら大賞」を受賞した日高愛美さんをはじめ、多くの方々が出品され、奄美の郷アイランドインフォメーションにすべての作品を展示しました。

芸術文化講演

平成19年11月3日(土)
レクチャールーム

「石川での田中一村」をテーマに、田中一村について様々な研究を行っている石川県立美術館学芸主幹である末吉守人さんを講師に招いて講演を行いました。

末吉さんは、石川県内の宗教法人「やわらぎの郷」にある聖徳太子殿天井画の調査結果を基に石川県における一村の画業を報告し、また、一村がゆかりのない石川県で天井画を描いたきっかけや主な作品などをスライドで紹介しました。

第6回奄美を描く美術展

応募期間

平成19年10月14日(日)まで

展示期間

平成19年11月3日(土)～平成19年11月24日(土)

奄美の風物をテーマとして、全国の美術を愛好する方々が奄美を訪れ、地域の風物や文化に接する機会を提供するとともに、奄美の文化振興、観光の発展を目的として開催しました。

今回から買い上げが1点増え、上位5作品を「買い上げ賞」として賞金を出すこととし、全国から作品を募集しました。県内をはじめ県外からも、茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川・静岡・長野・京都・愛知・奈良・大阪・愛媛・福岡・熊本・沖縄の16都府県に渡る出品があり、前回は3割以上も上回る163点の作品が集まりました。

また、鹿児島中央高等学校教諭の西村康博さん、名瀬美術協会会長の久保井博彦さん、県立大島工業高等学校教頭の寺園康一さんの3名が作品の審査を行いました。

審査員からは、「バラエティーに富んだ作品が多く出品され、入選作品のレベルは非常に高かった。奄美の風物を表現するだけでなく、生活や文化まで表現しようとした意欲的な作品がみられ、当展覧会の発展を感じた。」という総評をいただきました。

「第3回新緑～紅葉スケッチコンクール」 「第6回奄美を描く美術展」 授賞式

平成19年11月3日(土)
イベント広場

「第3回新緑～紅葉スケッチコンクール」と「第6回奄美を描く美術展」の授賞式を行いました。

「第3回新緑～紅葉スケッチコンクール」では「むるむるきよら大賞」を受賞した日高愛美さんをはじめ16名(内欠席3名)に宮崎館長が賞状を読み上げ、楯と商品を授与しました。

引き続き、「奄美を描く美術展」の表彰を行い、奄美を描く美術展大賞を受賞した高山法雄さん(熊本県)をはじめ入賞された16名(内欠席6名)に賞状と楯に加え、上位5作品には賞金も授与されました。



↑むるむるきよら大賞



↑第3回 新緑～紅葉スケッチ
コンクール受賞者



↑第6回 奄美を描く美術展 受賞者



↑奄美を描く美術展大賞



富山哲男木彫の世界

展示期間 平成19年11月3日(土)～平成19年11月24日(土)

12月の企画展として企画展示室で開催されました。定年退職後、趣味として始めたのをきっかけに19年間で約420点の作品を彫り上げ、厳選された50点が展示されました。85歳の年の祝いの記念を兼ねて開催されたこの企画展では、富山氏が「趣味を持つことでいつまでも元気でいられる。」と呼びかけ、来場者はその質の高さに感嘆していました。



「TODAY'S ART TEXTILE」展

展示期間 平成19年12月1日(土)～平成19年12月14日(金)

武蔵野美術大学が主催する同展が企画展示室において開催されました。同大学の田中秀穂教授をはじめ、OB、韓国、中国の作家ら20人が参加しました。

「織り」「染色」を素材や技法に使った作品26点が展示され、来館者の中には、「どうやって創りだしていくのか考えても思いつかず、不思議な世界で大変興味深い。」と感動される方もいました。



屋嘉比寛作品展

展示期間 平成19年12月23日(日)～平成20年1月6日(日)

独特の構図と色使いのコンピューターグラフィックス(CG)作品で知られる県立大島養護学校中学部3年の屋嘉比寛さんの作品展が企画展示室で開催されました。

2005年以来2回目の個展で義務教育最後の作品展となりました。奄美の自然を描いた最近の作品を中心に、幼少期のスケッチなども含め約100点を展示しました。早くから優れた技法で描き、小学4年でCGに出会ってから現在に至る成長の姿がうかがえました。小・中学生の来場も多く、屋嘉比さんの作品に感動している様子でした。



第9回一村ジュニア展

展示期間 平成20年1月13日(日)～平成21年1月27日(日)

一村会が主催する同展の巡回展が企画展示室で開催されました。今回は、大賞に選ばれた奄美市立朝日小3年生の福田董さんの作品「ゴーヤとおばあちゃんの足」、田中一村記念美術館賞を受賞した朝日小5年生の森健太郎さんの「一丸となってレッツゴー」と小宿中2年生の渡邊天乃さんの「海の幸」など約170点の作品を展示しました。

多くの作品が奄美の自然や伝統文化を描いており、一村を目的として来館された県外の観覧者からも「子供達のすばらしい絵に感動した。この才能を伸ばして欲しいと思う。」など多くの感想をいただきました。





美術講演

平成20年2月17日(日) 奄美文化センター第2会議室

鹿児島大学教育学部の桶田洋明准教授を講師に迎えて開催しました。桶田准教授は自分の制作過程を紹介しながら、具象絵画の仕組みを解説しました。奄美市美展の会期最終日で、市美展と同じ会場ということもあり、受講生の作品を鑑賞しながら技術指導も行いました。参加者の中には、芸術大学に進学する生徒もあり「大学の講義を先取りしたようで刺激的な内容だった。」と喜んでいました。



「ぬさりぐと(豊穡)」鈴木るり子洋画展

展示期間 平成20年2月3日(日)～平成20年2月17日(日)

2月の企画展として企画展示室で開催されました。鈴木さんは奄美大島の宇検村出身で、主婦の傍ら油絵を描きはじめ、美術展や南日本美術展に入選・入賞するようになり、平成18年には名瀬市美展(現奄美市美展)で大賞を受賞されました。

今回、奄美の言葉で豊穡を意味する「ぬさりぐと」をテーマに、奄美の海や大地からの恩恵に感謝する気持ちを込めた作品を展示しました。観覧者からは、「作品からたくさんの元気を頂いた。」と感動された様子でした。



創作体験教室〔人物画講座〕

展示期間 平成20年2月23日(土)～平成20年2月24日(日)

県美展審査員・二科会会員である西健吉さんを講師に招き、人物画講座を2日間の日程で開催しました。西さんから人物の捉え方などの説明を受けた後、前半はクロッキーをし、後半は油絵・水彩で制作しました。参加者は西さんの指導の下、真剣にキャンパスに向かい作品を仕上げていました。最後に講評会を行い、各々の作品へのアドバイスをいただきました。



海江田宏×吉村真也 洋画2人展

展示期間 平成20年3月2日(日)～平成20年3月16日(日)

3月の企画展として「海江田宏×吉村真也 洋画2人展」が開催されました。2人は、県立大島養護学校の教諭である傍ら絵画作品の制作を手掛けており、数々の美術展にも出展しています。今回、かねてより美術鑑賞の機会が少ない児童生徒やたくさんの地域の方々に作品を鑑賞していただき、お互いの交流を図れたらという2人の要望で実現しました。

初日は、2人の同僚である教諭の方々によるエレクトーン演奏などのミニオープニングイベントがあり、同僚や生徒らも大勢訪れて開幕を祝いました。



奄美パーク応援隊

奄美パーク応援隊は地域の方々による奄美パークのボランティアサポーターです。

展示案内ガイド、手熟ガイド、園芸サポーター、一村サポーターの4つの分科会に分かれ、それぞれ得意な分野で活動しています。今回は園芸サポーターの活躍を紹介します。

PICK UP!!

園芸サポーターは園地内の植物管理をします。月に1, 2回の作業日に草取りや植栽, 施肥作業などを行っています。



植物の名札作り
100個の名札を設置しました。



草取り
花壇整備のお陰でたくさん花が咲きました。



ハイビスカスの剪定作業
一昨年植栽したハイビスカスも大きくなってきました。



クロトンの植樹
出会いの広場には184本のクロトンを植樹しました。



花壇整備
2階の花壇はレストランから一望でき、お客様の目を楽しませています。ガーベラ、マツバボタン、ポーチュラカ、日々草、カランコエなど様々な花が咲いています。



奄美パーク応援隊の声

私と奄美パーク

福 崎 道 代

私が最初に奄美パークに関わったのは、奄美パーク建設検討委員会として参加したのが始まりです。観光ガイドの仕事柄、観光客の意見を反映させたいということで、声がかかったようです。

地元の人達にも、観光客にも喜んでもらえる施設ということで、素晴らしい観光地ができました。

多くの方々に喜んで頂いていますが、年々観光客も増えてきますと、「施設内の説明があったら・・・」との声に、「パーク内に案内係を置いてください」と、観光バス側からもお願いしましたら「奄美パーク応援隊」を結成して頂きましたので、少しでもお役に立てればと参加いたしました。

最初は月2回の来園で、個人のお客様にも自分から声をかけ案内するという設定でした。バスの中で大勢のお客様を相手に案内するのは出来るのですが、個人の方に声をかけるのがなかなか難しく、次第に回数が減り、その内体調を崩し応援隊をしばらく休んでいましたが、年2回の来園でも可ということで少し気楽に出来るかなと今年度から、他のバスガイドにも声をかけ参加しました。

バスの仕事で来園した時に観光客の方を案内する事で他の応援隊の方のお手伝いになればと思いました。

応援隊として参加する事で多くの知識を得る事が出来ます。奄美の歴史や民俗学、田中一村など、学べば学ぶ程深いものがあり、それをひとりでも多くの人達に、特に地元の方々に知って頂きたいと思うようになりました。

施設内の案内だけでなく、島唄や六調太鼓、三味線と、島の伝統や文化を学ぶ事も出来ます。

私は六調太鼓を習っています。皆さんも参加しませんか！？

皆で楽しみましょう！そして奄美の素晴らしさを各地に、各方面に発信しましょう！

わさや島自慢

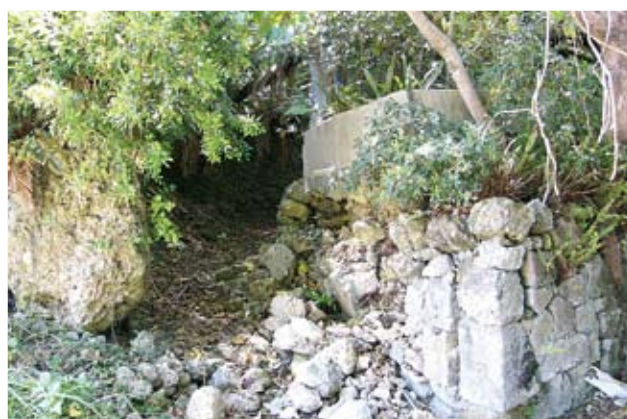
金比羅神社とトーチ墓(徳之島町)

亀津南区の丹向川横の崖地上に金比羅神社があります。ここはとても古くからあり、1659年に薩摩藩が見地竿入れを行った際、地元で「コンピラサン」と呼んでいたのを現在の「金比羅山」に書き改めたと考えられています。

また、その祠の中には3基の石碑があり、「文政〇〇」（文政年間1818～1829年）や「文化拾五年戊寅」（1818年）等の文字が刻まれています。ここに祭られている神様は海上の守護神「金比羅」様で、本土に帰る代官たちはここで航海の無事を祈ったのであろうと言われています。ここからは、亀津の町や港が一望でき、太平洋がその先に広がっています。故郷に帰ることが出来るという喜びと、これから始まる命がけの航海。代官たちは複雑な思いを胸にしてここを訪れたことでしょう。

さて、この金比羅神社から三つの鳥居を抜けて100メートル余り下ると、トーチ墓があります。ここには、徳之島へ赴任してきたものの故郷に帰ることなく亡くなった代官の墓や、柳家（徳之島三十八士族のひとつ）等の墓があります。ちなみにトーチ墓は殿地からきているといい、大変格式の高い墓地です。墓石も山川石や河頭石（コガシライシ）が使われており、島外から運び込んだものであることは間違いありません。

この他にも徳之島町には多くの文化財や史跡があります。いろいろな発見がそこにはあると思います。一度足を運んでみてはいかがでしょうか。特に、小学生・中学生の皆さんは郷土の歴史を知るのはぜひ必要なことです。島に住んでいながら島のことは本当に知らないことだらけです。いろいろな機会を捉えて文化財史跡めぐりをやってみてください。楽しいですよ。



生誕100年記念『新発見、四季山水図他一挙公開』

■展示期間：平成20年7月19日（土）～平成20年11月18日（火）

田中一村は、明治41年に栃木県で生まれました。50歳の時に奄美に移り住み、紬染色工として生計をたて、蓄えができたなら絵を描くという生活を繰り返し、昭和52年名瀬市（現 奄美市名瀬）有屋の借家で、誰にも看取られず69歳の生涯を終えました。

今年当館では、生誕100年記念の常設展示を1年間行います。今回は、今年5月に全国の美術館学芸員6名で作品の共同調査を行った際、新たに発見した一部を紹介します。

常設展示室1

幼年期～青年期 明治41年（1908）～昭和13年（1938）

◆大人顔負けの天才的な画才を現した10歳から22歳にかけての色紙。

画題	種類	制作年代
蛤 図	（色紙）	大正 7 年 （1918年 10歳）
凌 波 仙 士	（色紙）	大正 10 年 （1921年 13歳）
喜 呈 芳 色	（色紙）	大正 13 年 （1924年 16歳）
桐 蔭 図	（色紙）	昭和 5 年頃 （1930年 22歳頃）

◆これらの3点は、もと「画帖」であった一連の作品だろうと判断される。作品のサイズ及び紙がいずれも同じで、しかも中心に折れが見られるため。四字「道法自然」についてはその題字であったものだろう。

画題	種類	制作年代
四字「道法自然」	（額装）	昭和 2 年 （1927年 19歳）
牡 丹 図	（額装）	昭和 2 年 （1927年 19歳）
梅 花 図	（額装）	昭和 2 年 （1927年 19歳）

◆米邨と名乗っていた頃の南画の作品。多くの作品が残っている。

画題	種類	制作年代
山 水 図	（軸装）	大正 14 年 （1925年 17歳）
藤 図	（軸装）	昭和 2 年 （1927年 19歳）

◆家族への思い、平和への祈りなど、さまざまな思いを込めて観音像を描いたとされる。第二次大戦前後に多くの観音図が描かれている。

画題	種類	制作年代
崖上 観 音 図	（軸装）	昭和 15 年頃 （1940年代）

常設展示室2

千葉寺時代 昭和13年（1938）～昭和33年（1958）

◆30歳で千葉に移り住み、50歳で奄美に渡るまでの20年間、農業をしながら身近な風景や自然を描いた。

画題	種類	制作年代
秋 色 ①	（額装）	昭和 20 年代
千葉寺・麦秋	（額装）	昭和 20 年代
千葉寺風景①	（額装）	昭和 20 年代
黒 牛 図	（額装）	昭和 20 年代

九州・四国の旅 昭和30年（1955）

◆旅先を描いた作品は明るく躍動感にあふれ、奄美行きのきっかけともなった。

画題	種類	制作年代
九 里 峡	（色紙）	昭和 30 年 （1955年 47歳）
由 布 風 景	（色紙）	昭和 30 年 （1955年 47歳）
青 島 の 朝	（色紙）	昭和 30 年頃 （1955年 47歳頃）
高 千 穂 ②	（色紙）	昭和 30 年 （1955年 47歳）

常設展示室3

◆奄美を訪れて1年あまり経った頃描かれた仏画。

画題	種類	制作年代
釈 尊 大 悟 像	（額装）	昭和 35 年頃 （1960年 52歳頃）

◆奄美の自然を描き、一村芸術が華開いた作品の数々。奄美の杜シリーズは11点、その他の大作を含めても16点しかない。

画題	種類	制作年代
奄美の杜①～ソテツとアダン	（額装）	昭和 36 年 （1961年 53歳）
奄美の杜（未完）	（額装）	昭和 50 年頃
奄美の杜①～ピロウ・コンロンカに霞	（額装）	昭和 40 年代
奄美の杜②～ピロウとアカショウビン	（額装）	昭和 37 年 （1962年 54歳）
奄美の杜③～ガジュマルとトラフズク	（額装）	昭和 40 年代

◆これまで「倣蕪村①②③④」とされてきたが、5月の作品調査の中で、4幅対の「四季山水図」である可能性が高いことがわかった。蕪村風に描いた四季の風景である。南画作品を模写したというより、〇〇風の作品であるという意味で「倣」という字を使っている。

画題	種類	制作年代
四季山水図（倣蕪村）	（軸装）	昭和 22 年頃 （1947年 39歳頃）

◆千葉寺時代、一村を支援していた白井珍三郎氏が、戦時中親戚である寺嶋家に疎開した際、お礼に贈られた作品。

画題	種類	制作年代
竹 と 蘭	（衝立）	昭和 4 年 （1929年 21歳）

千葉寺時代 昭和13年（1938）～昭和33年（1958）

◆30歳で千葉に移り住み、50歳で奄美に渡るまでの20年間、農業をしながら身近な風景や自然を描いた。

画題	種類	制作年代
夏 富 士	（色紙）	昭和 18 年頃 （1943年 35歳頃）
麦 播	（色紙）	昭和 19 年頃 （1944年 36歳頃）
囀 り	（色紙）	昭和 22 年頃 （1947年 39歳頃）
暮 色	（色紙）	昭和 33 年 （1958年 50歳）

奄美の一村 昭和33年（1958）～昭和52年（1977）

◆奄美時代の色紙。

画題	種類	制作年代
海 辺 へ の 道	（色紙）	昭和 30 年代
海 辺	（色紙）	昭和 30 年代
アノマタラシとアサギマダラ	（色紙）	昭和 40 年 （1965年 57歳）
高 倉 風 景	（色紙）	昭和 35 年頃 （1960年 52歳頃）
漁 樵 対 問	（額装）	昭和 35 年頃 （1960年 52歳頃）

◆緻密な写生を繰り返した素描。

魚 ①	魚 ②	エ ビ ④
鳥 ①	トラフズク	

◆「私も来年は七十歳古稀です。古稀記念として絵をお贈りして、ご高恩の万一に報いたいと考えて居ります。」との言葉が添えられた作品。

画題	種類	制作年代
エ ビ と 魚	（額装）	昭和 51 年頃 （68歳頃）

画題	種類	制作年代
崖の上のアカショウビン	（額装）	昭和 40 年代

◆「この絵だけは誰にも譲れない、閻魔大王へのお土産なのですから・・・」と一村が書き記した2点。「アダンの木」は個人の所有であるため、複製を展示している。

画題	種類	制作年代
ア ダ ン の 木	（額装）	昭和47・8年 （64・5歳）：複製
奄美の杜⑥～クワズイモとソテツ	（額装）	昭和47・8年 （64・5歳）

～お知らせ～

鹿児島県奄美パークイベント案内(平成20年7月～21年1月)

奄美の郷イベント広場

- 奄美の郷ライブステージ・・・・・・・・・・・・・・・・ 8月 9日(土)
- サマーコンサート・・・・・・・・・・・・・・・・ 8月16日(土)
- 文化講演会・・・・・・・・・・・・・・・・ 9月28日(日)
- 奄美の郷ライブステージ・・・・・・・・・・・・・・・・ 10月25日(土)
- 奄美の郷ライブステージ・・・・・・・・・・・・・・・・ 11月16日(日)
- フユウンメコンサート・・・・・・・・・・・・・・・・ 12月14日(日)
- 逢いたくば(日伯交流年事業イベント)・・・・・・・・ 12月21日(日)
- 初春唄あしび・・・・・・・・・・・・・・・・ 1月 3日(土)
- 新春寄席・・・・・・・・・・・・・・・・ 1月10日(土)

田中一村記念美術館

- 常設展示替え・・・・・・・・・・・・・・・・ 7月19日(土)～
- 田中一村生誕100年記念日仏交流美術展・・・・ 7月20日(日)～ 8月10日(日)
- 「シマに生きて」管洋志写真展・・・・・・・・ 8月13日(水)～ 9月 5日(金)
- 親子スケッチ大会・・・・・・・・・・・・・・・・ 8月24日(日)
- 「日本に向けられたヨーロッパ人の眼・ジャパントウディ vol.9」
・・・・・・・・・・・・・・・・ 9月 7日(日)～ 9月28日(日)
- 創作体験教室(風景画)・・・・・・・・・・・・・・・・ 10月 5日(日)
- 第4回新緑～紅葉スケッチコンクール作品展・・ 10月25日(土)～11月24日(月)
- 第7回「奄美を描く美術展」・第4回「新緑～紅葉スケッチコンクール作品展」表彰式
・・・・・・・・・・・・・・・・ 11月 3日(月)
- 第7回「奄美を描く美術展」・・・・・・・・ 11月 3日(月)～11月24日(月)
- 常設展示替え・・・・・・・・・・・・・・・・ 11月20日(木)～
- 「一逢いたくばー ブラジル移民百年の肖像」八木仁志写真展
・・・・・・・・・・・・・・・・ 12月21日(日)～ 1月 6日(火)
- 新企画展示室増築完成記念式典・・・・・・・・ 12月25日(木)
- 増築完成記念親子美術館探検・・・・・・・・ 1月 4日(日)
- 中場芳舟書道展・・・・・・・・・・・・・・・・ 1月11日(日)～ 1月27日(火)

●お問い合わせ

鹿児島県

奄美パーク

〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田 1834

■奄美パークホームページ <http://www.amamipark.com/>

■奄美の郷／TEL.0997-55-2333 FAX.0997-55-2612

■田中一村記念美術館／TEL.0997-55-2635 FAX.0997-55-2613

- 開園時間／9:00～18:00(7・8月は9:00～19:00)
入館は、閉園時間の30分前までです。
- 休園日／毎月第1及び第3の水曜日(祝日の場合は翌日)
(4月29日～5月5日、7月21日～8月31日、年末年始は開園)
- 施設観覧料／奄美の郷、田中一村記念美術館共通観覧料
大人…400円、高校・大学生…280円、
小・中学生…200円、幼児(小学生未満)…無料

奄美パーク周辺マップ

